

履歴および教育・研究活動の記録

吉 田 正 治

I 略 歴

1961年3月 東京教育大学文学部英語・英米文学科卒業（文学士）

1961年4月 都立江戸川高等学校教諭

1964年4月 都立白鷗高等学校教諭

1967年4月 東京教育大学文学部外国語研究所助手

1971年4月 成城大学文芸学部専任講師

1975年4月 成城大学文芸学部助教授

1976年9月～1977年8月

カリフォルニア大学ロスアンゼルス校 (UCL) 言語学科の
客員研究員（日本学術振興会および成城大学の研修者として）

1986年4月 成城大学文芸学部教授

2008年3月 成城大学を定年退職

II 教育・研究活動

1. 著 書

1. 『小学生の英語』小学館、1969年〔共著〕

2. 『テープとチャートによる英語入門期の指導』大修館、1970年
[共著]
3. 『はじめての英語』大修館、1972年 [共著]
4. 『英語の前置詞』吾妻書房、1972年 [共著]
5. 『カタカナ語の辞典』池田書店、1981年 [共著]
6. 『同意語・反意語626』日本英語教育協会、1981年 [単著]
7. 『ユーモア例話辞典』ぎょうせい、1989年 [共著]
8. 『英語教師のための英文法』研究社、1995年 [単著]
9. 『続英語教師のための英文法』研究社、1998年 [単著]

2. 翻訳

1. アンドリュウ・ラドフォード著『変形統語論—チョムスキー拡大標準理論解説』研究社、1984年 [単著]
2. ジェニファー・コーツ著『女と男とことば』研究社、1990年 [単著]
3. マイケル・スワン著『オックスフォード実例現代英語用法辞典』(第2版) 研究社、2000年 [単著]
4. マイケル・スワン著『オックスフォード実例現代英語用法辞典』(第3版) 研究社、2007年 [単著]

3. 論文 (学会誌・紀要)

1. *Report on a Study of Tape Materials for Audio-lingual Training at the Initial Stage of English Teaching in Japan*、東京教育大学文学部外国語研究所、1969年 [共著]
2. “Audio-lingual Training and Tape Teaching”『語学教育』289号、語学研究所、1969年 [単著]

3. 「Verb + Element + Prepositional Phrase についての覚書」『英語教育』第19巻第7号、大修館、1970年 [単著]
4. 「英語の受動構造記述上の問題点」『紀要』創刊号、大学英語教育学会、1970年 [単著]
5. 「英語における補文構造の諸相」『成城大学文芸学部・短期大学部創立二十周年記念論文集』、1974年 [単著]
6. 「動名詞と事実性について」『成城文藝』78号、成城大学文芸学部、1976年 [単著]
7. 「英語の二重目的語構造における直接目的語省略可能性について」『紀要』第8号、大学英語教育学会、1977年 [単著]
8. 「外国語としての英語教授法の研究」『特定派遣研究者報告集』日本学術振興会、1978年 [単著]
9. 「接続詞 that の省略」『英米の文学と言語』篠崎書林、1981年 [単著]
10. 「Error Analysis—統語論—」『英語教育の新しい展開』開拓社、1981年 [単著]
11. 「ことばと女性—社会言語学的考察—(1), (2), (3)」『現代英語教育』第21巻第1, 2, 3号、研究社、1984年 [単著]
12. 「固有名詞と関係詞節」『英語青年』第131巻第1号、研究社、1985年 [単著]
13. 「限定詞と関係詞節」『成城文藝』第113・114号、成城大学文芸学部、1985年 [単著]
14. 「英語における女性語の特徴—標準指向性と丁寧さをめぐって—」『成城大学文芸学部創立三十五周年記念論文集』、1989年 [単著]
15. 「「英語支配」と英語教育」『成城教育』第73号、成城学園、1991年 [単著]

16. 「制限用法の関係代名詞 who と that、which と that は自由変異か」
『英語青年』第145巻第6号、研究社、1999年 [単著]

4. 紹介・解説（雑誌など）

1. 「Teacher's Manual はこれでいいのか」『英語教育』第16巻第2号、大修館、1967年 [単著]
2. 「英語入門期—中学—の指導の考え方」『英語教育』第17巻第1号、大修館、1968年 [単著]
3. 「テープによる英語入門期指導の研究」『英語教育』第18巻第12号、大修館、1970年 [単著]
4. 「言語干渉対構造上の複雑性」『英語教育』第27巻第3号、大修館、1978年 [単著]
5. 「第二言語習得発達度指数」『英語教育』第27巻第9号、大修館、1978年 [単著]
6. 「差別語としての女性語」『ことばと社会—Ⅱ—』第8回公開講座、成城大学、1983年 [単著]
7. 「日本人英語の盲点—文法面—」『時事英語研究』第39巻第5号、研究社、1984年 [単著]
8. 「私の英文法研究法—自己研修の糸口として—」『現代英語教育』第22巻第6号、研究社、1985年 [単著]
9. 「現代英語の正用法」『時事英語研究』第42巻第6号、研究社、1987年 [単著]
10. 「動名詞の2面性」『話題源英語』とうほう、1989年 [単著]
11. 「アメリカ人とジョーク」『現代英語教育』第26巻第5号、研究社、1989年 [単著]
12. 「英語における性差別」『女と男とことば』訳者あとがき、研究社、

1990年 [単著]

13. 「女の英語・男の英語」『時事英語研究』第45巻第6号、研究社、1990年 [単著]
14. 「学校英語は悪役か—教科書—」『時事英語研究』第47巻第3号、研究社、1992年 [単著]
15. 「法助動詞 could の制限」『現代英語教育』第33巻第1号、研究社、1996年 [単著]
16. 「必要・義務を表わすとき must = have to か」『現代英語教育』第33巻第2号、研究社、1996年 [単著]
17. 「had better の意味」『現代英語教育』第33巻第3号、研究社、1996年 [単著]
18. 「didn't need to ～と needn't have —ed との意味の相違」『現代英語教育』第33巻第4号、研究社、1996年 [単著]
19. 「-ing 形の形容詞と -ed 形の形容詞」『現代英語教育』第33巻第5号、研究社、1996年 [単著]
20. 「比較構文2態」『現代英語教育』第33巻第6号、研究社、1996年 [単著]
21. 「between と among」『現代英語教育』第33巻第7号、研究社、1996年 [単著]
22. 「as ～ as 構文について」『現代英語教育』第33巻第8号、研究社、1996年 [単著]
23. 「比較構文と代動詞」『現代英語教育』第33巻第10号、研究社、1997年 [単著]
24. 「比較構文と倒置」『現代英語教育』第33巻第11号、研究社、1997年 [単著]
25. 「代名詞と先行詞」『現代英語教育』第33巻第11号、研究社、

1997年 [単著]

26. 「総称表現と関係詞節」『現代英語教育』第33巻第12号、研究社、1997年 [単著]

3. 文部省検定教科書など

1. *The New Age English 1*、研究社、1981年 [共著]
2. *The New Age English 2*、研究社、1982年 [共著]
3. *Practical English Aural-Oral Course 1, 2*、日本英語教育協会、1984年 [共著]
4. *The New Age Dialog a*、研究社、1993年 [共著]
5. *The New Age Listening b*、研究社、1993年 [共著]
6. *The New Age Communication c*、研究社、1993年 [共著]
7. *The New Age Reader*、研究社、1994年 [共著]

4. NHKのテレビ英語講座

『高校英語Ⅰ』1982-1985年

5. その他

1. 「紺野先生を悼む」『葦』2号、都立江戸川高等学校 [単著]
2. 「死はやさしい」『葦』3号、都立江戸川高等学校 [単著]
3. 「ふるさとの詩」『校友』48号、都立白鷗高等学校 [単著]
4. 『解明総合英語』文英堂、1966年 [共著]
5. 「David Abercrombie (1967), *Studies in Phonetics and Linguistics*の書評」『英語教育評論』第1巻第3号、Oxford University Press、1967年 [単著]
6. 「夏季大学英語教育セミナーに参加して」『英語教育』1967年10

月号 [単著]

7. 「Owen Thomas (1967), *Transformational Grammar and the Teacher of English* の書評」『語学教育』第283号、語学研究所、1967年 [単著]
8. 「D. Byrne (1968), “Reported Speech” の訳注」『英語教育評論』第2巻第2号、Oxford University Press、1968年 [単著]
9. 『中学ばらシリーズ 中3英語』旺文社、1972年 [共著]
10. 「一つの転機」『東京教育大学文学部記念誌』東京教育大学、1977年 [単著]
11. 「第16回大学教育学会大会報告」『英語教育』第27巻第1号、大修館、1978年 [単著]
12. 「田中春美他著『言語学のすすめ』の書評」『英語教育』第27巻第8号、大修館、1978年 [単著]
13. 「W. F. マッケイ著・伊藤健三他訳『言語教育分析』の紹介」『言語』第8巻第9号、大修館、1979年 [単著]
14. 「新講シリーズ アメリカ事情 (1)—ロサンゼルスとくるま—」『高校通信 英語』93号、1980年 [単著]
15. 「新講シリーズ アメリカ事情 (2)—学問に挑戦するアメリカの学生：UCLA学生点描—」『高校通信 英語』94号、1980年 [単著]
16. 「国広正雄著『快刀乱麻を断つ』の書評」『英語教育』第29巻第5号、大修館、1980年
17. 「大杉邦三著『英語の敬意表現』の紹介」『言語』第11巻第7号、大修館、1982年 [単著]
18. 「原口庄輔著『変形文法の視点』の書評」『英語教育』第31巻第2号、大修館、1982年 [単著]
19. 「田辺洋二著『英語らしさと日本語らしさ—誤解を避けるファイ

- ン・チューニング』の書評』『英語教育』第31巻第6号、研究社、1982年〔単著〕
20. 「国広哲弥編『発想と表現』の書評』『現代英語教育』第19巻第7号、研究社、1982年〔単著〕
 21. 「『総合講座』の諸問題』『成城教育』第42号、成城学園、1983年〔共著〕
 22. 「小泉保著『く教養のためのく言語学コース』の書評』『英語教育』第33巻第9号、研究社、1984年〔単著〕
 23. 「英語学習—異文化理解への道」『NHK学園』第10・11号、日本放送出版協会、1984年〔単著〕
 24. 「所謂“基礎学力テスト”をめぐるって」『成城教育』第51号、成城学園、1986年〔共著〕
 25. 「安井稔編『例解現代英文法事典』の書評—生成文法30年の歴史を検証」『図書新聞』、1987年7月4日〔単著〕
 26. 「アメリカの大学における一般教育の成立」『成城教育』第52号、成城学園、1986年〔単著〕
 27. 「臨教審の大学入試改革案」『成城教育』第54号、成城学園、1986年〔単著〕
 28. 「『Revised Jack and Betty復刻版』の書評」『時事英語』第47巻第9号、研究社、1992年〔単著〕
 29. 「外国語教育制度改革についての答申案」1992年〔共著〕
 30. 「今はたとえ小さな流れでも」『学生生活』成城大学・成城大学短期大学部、1993年〔単著〕
 31. 「座談会 NHK語学講座を担当して」『成城教育』第100号、成城学園、1998年〔共著〕
 32. 「Jennifer Coates: *Women Talk: Conversation between Women Friends*

の紹介—女のおしゃべりは女の友情の絆」『英語青年』第143巻第5号、研究社、1997年〔単著〕

33. 「1997年度公開講座「21世紀に向かって—歴史に学ぶ—」ごあいさつ」、成城大学教務部、1997年〔単著〕
34. 「文法とコミュニケーション」大学教育学会主催英語教育セミナー講演、1997年
35. 「傷つくことを恐れるな—心の闇を開くために—」『学生相談室活動報告』第6号、成城大学・成城大学短期大学部学生部、1998年〔単著〕
36. 「1998年度公開講座「いま「家族」を考える」ごあいさつ」成城大学教務部、1998年〔単著〕
37. 「英語教師と英文法」文教大学英語夏季講座講演、1999年
38. 「自分探しの旅のすすめ」『学生生活』成城大学・成城大学短期大学部学生部、2000年〔単著〕
39. 「文芸学部の改組—ことばの教育の復権を目指して」『成城大学開学五十周年—記念式典・祝賀会の記録』成城大学、2000年〔単著〕
40. 「中国語海外短期研修を実施するにあたって」『中国語海外研修報告』成城大学文芸学部、2001年〔単著〕
41. 「文芸学部創設50周年を迎えて」『成城学園同窓会だより』第77、成城学園同窓会、2003年〔単著〕
42. 「中村敬教授を語る—生き方を示した教師像—」『成城イングリッシュモノグラフ』第36号、2003年〔単著〕
43. 「成城大学全学部共通教育検討作業部会報告」2004年〔共著〕
44. 「文芸学部・文学研究科の直近十年史」『成城学園九十年』成城学園、2007年〔単著〕

その他、『百万人の英語』、*The English Companion*などへの英文法に関する

寄稿30数編がある。

6. 学会所属および活動

大学英語教育学会、日本英文学会

大学英語教育学会サマー・セミナー事務局長（1978年）

大学英語教育学会『紀要』編集責任者（1979年～1983年）

大学英語教育学会企画委員（1971年～1984年）

日本英文学会評議員（1993年4月～1997年3月）

7. 成城大学

一般教育主任（1985年10月～1986年3月、1987年4月～1989年3月）

文芸学部語学改革委員長（1991年10月～1992年6月）

国際交流委員長（1993年5月～1996年4月）

大学院英文学専攻主任（1993年4月～1995年3月）

文芸学部教務主任（1994年4月～1997年3月）

教務部長（1997年4月～1999年3月）

大学評議員（1998年10月～2006年9月）

英文学科主任（1999年4月～2000年3月）

文芸学部業績評価委員会委員長（1999年10月～2000年3月）

文芸学部長（2000年4月～2004年3月）

学園理事（2001年4月～2004年3月）

文芸学部創設50周年記念事業実行委員長（2004年4月～11月）

8号館建設委員長（2003年4月～2005年7月）